

## 第19回「助成研究吉田秀雄賞」受賞研究決定

当財団は第19回「助成研究吉田秀雄賞」の受賞研究を決定いたしました。本賞は、「広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーション」に関する研究助成事業の成果の中から優れた研究を顕彰するものです。選考委員会（選考委員長・嶋村和恵早稲田大学教授）による厳正な審査の結果、2020年度に当財団が助成した研究成果（常勤研究者の部6件、大学院生の部5件）の中から、下記の方が受賞されました。

贈賞式は、吉田秀雄の誕生日である11月9日に当財団で開催しました。



受賞者の方々と選考委員長・嶋村和恵氏（前列左）、選考副委員長・清水聡氏（前列右）



左から：当財団専務理事・岩下幹と受賞者の五所氏、佐々木氏、吉岡氏



左から：当財団専務理事と受賞者の杉谷氏、外川氏、唐沢氏

〔常勤研究者の部〕

<p>準吉田秀雄賞 （副賞50万円）</p>	<p>『商標訴訟の証拠としての消費者アンケートの設計手法の研究 ～マーケティング研究と法学の融合によるアプローチ～』</p>	<p>井上 由里子 一橋大学大学院法学研究科教授 佐々木 通孝 鳥取大学研究推進機構准教授 五所 万実 目白大学外国語学部英米語学科専任講師 吉岡（小林） 徹 一橋大学イノベーション研究センター講師</p>
<p>準吉田秀雄賞 （副賞50万円）</p>	<p>『広告への好意度の国際比較研究 ～ズームイン／ズームアウト型認知と広告表現～』</p>	<p>杉谷 陽子 上智大学経済学部教授 外川 拓 上智大学経済学部准教授 唐沢 穰 名古屋大学大学院情報学研究科教授</p>

〔大学院生の部〕 該当なし

\*常勤研究者の部の吉田秀雄賞／奨励賞は該当なし。大学院生の部の吉田秀雄賞／準吉田秀雄賞／奨励賞は該当なし

# 第19回「助成研究吉田秀雄賞」選考委員長講評

早稲田大学商学大学院教授 嶋村 和恵

第19回助成研究吉田秀雄賞の本審査会は9月29日に行われました。新型コロナウイルス感染予防の観点から、審査会は財団会議室とオンラインのハイブリッド方式での開催でした。これまで長く選考委員長、副委員長を務めて下さった亀井昭宏先生、仁科貞文先生が退任され、今回からは清水聰副委員長（慶應義塾大学商学部教授）とともに、嶋村が選考委員長を務めることとなりました。

助成研究吉田秀雄賞は、本年度提出された助成研究（常勤研究者6件、大学院生5件）のうち予備選考を通過したものについて、審査委員13名全員が個別に採点する事前審査を集計した上、本審査会での意見交換、議論を経て授賞研究を決定していきます。過去の審査会でも活発な意見が出ていましたが、今回もさまざまな研究分野の審査委員が、対象研究についての異なる評価や意見を披露し、和やかながらも議論が大いに盛り上がったことは特記すべきことと思われま

す。常勤研究者の部では、学術的意義、独創性、インパクトという点から評価します。今回は常勤研究者の部で2件の準吉田秀雄賞を決定しました。

井上由里子先生を代表とする研究は、消費者がブランド名を固有名詞と捉えるか、普通名詞と捉えるかが商標訴訟で重要な証拠となる点にもかかわらず、法学研究ではそこにあまり踏み込まれていなかった点に着目したもので、法学とマーケティングの学際的なものとして、高く評価されました。一方で、マーケティング研究で使わ

れる研究方法と比べるとシンプル過ぎるのではないかという意見もありました。

杉谷陽子先生を代表とする研究は、母語の特性がズームイン型かズームアウト型かによって、わかりやすい、好ましいと評価される広告の商品提示方法が異なることを実証するもので、視点のユニークさが高い評価を得ました。一方で、実際の広告表現の複雑さをもっと考慮すべき、複数の言語を流暢に扱える人はどうなるのか、文化や言語の複雑さをどう取り込むかといった意見もありました。

長時間の議論の結果、この2件とも準吉田秀雄賞に該当すると判断されたのですが、規程では吉田秀雄賞、準吉田秀雄賞どちらも原則として1件ずつとなっています。全審査委員の意向を踏まえて、理事長判断により、今回、2件の準吉田秀雄賞を授賞することになりました。

大学院生の部は、先行研究、独創性、実務応用性、論旨の明確さ、実証手続き、発展性理論貢献という6項目で評価しますが、残念ながら今回は対象者なしとなりました。研究対象としての広告そのものについて、深い理解とリスペクトがほしいという意見もありました。

常勤研究者の部で準吉田秀雄賞2件という結果は、吉田秀雄記念事業財団の助成研究とはどのようなものであるべきかを示すものになったといえるでしょう。今後も、優れた研究が生まれてくることを祈念いたします。

## Editor's Note

チーム運営は志とリスペクトが大切だと思っている。最近目にしたもので「なるほど！」と思うものがあつた。「意思が濁ると意地になる 口が濁ると愚痴になる 徳が濁ると毒になる」。澄み切るのは難しいが、透けて見えるようにはしていきたい。齢のせいかわかりで文字が見えにくい。居酒屋のメニューなどはきつい。濁った眼になっていないことを望む。(傾)

「気象予報はチーム戦です」。この夏に観ていたテレビドラマに、よくこのセリフが出てきました。各メンバーが、自分の強みや専門性をそれぞれ見出し、試行錯誤を繰り返しながら仕事と向き合う姿に好感を持ちました。自然災害という脅威を前にして“できることとできないこと”を冷静に伝える上司の姿も印象的でした。SNSでハッシュタグがついていたのもうなげます。(葡萄)

今年の助成研究吉田秀雄賞は、準吉田秀雄賞が2件選出されました。通常は1件以内のところを選考委員の先生方から強い推薦があり、異例の同時受賞となりました。いずれの研究も社会的あるいは学術的な貢献を評価されたことはもちろんですが、選出の最大の理由は新しい研究領域に立ち向かった、その姿勢ではないかと感じます。受賞者の皆様おめでとうございます。(ひろた)

AD STUDIES 2021年12月25日号 通巻78号  
公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団  
〒104-0061  
東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル  
TEL : 03-3575-1384 FAX : 03-5568-4528  
URL : <https://www.yhmf.jp>

発行人 岩下 幹  
編集長 布施博嗣  
編集部 岩本紀子、沓掛涼香  
編集協力 プレジデント社  
表紙デザイン 八木義博+藤田将史、中谷晴子(Creative Power Unit)  
撮影 片村文人

本文デザイン 南 剛(中曾根デザイン)  
校正 株式会社ヴェリタ  
印刷・製本 大日本印刷株式会社

©公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団  
掲載記事・写真の無断転載を禁じます。